



鎌田 幸也 議員
(市民クラブ)

産廃最終処分場候補地について 県は処分場の必要性等を説明

【Q】 県の次期産業廃棄物最終処分場の候補地として、大迫町亀ヶ森を含む5カ所が選定されたが、県と本市との協議内容と候補地エリアの住民への説明会について伺う。

【A】 【市長】 本市には、9月2日に来庁し、次期最終処分場の必要性、整備基本方針、候補地選定委員会による選定経緯、大迫町亀ヶ森を含めた整備候補地等の概要説明のみを受けた。今後、県が住民への説明を予定としているが、具体的日程や対象は、市と事務的に相談し進めていきたいとの意向であったが、現時点では未定と伺った。

教育政策について

【Q】 全国学力・学習調査学力テストの結果が発表されたが、市内小中学校の結果とその分析について伺う。また、学校別の平均正答率の公表について伺う。

【A】 【教育長】 小学校6年生の国語と算数はおおむね良好。中学校3年生の国語は全国と同程度だが数学は下回っている。中学校数学の関数等での傾向として、理由説明や証明する問題に課題が見られた。全国比で正



小学6年生の国語と算数はおおむね良好

答数が多い子どもが上位に少なく、十分な子どもが中位、下位にやや多い。これは学力保障の観点から重く受け止めており、実態に即し深い理解と活用を促す教育指導に取り組む。さらに、全体的傾向、各教科、各校の状況等を分析課題を明らかにし、小中連携等も大切にした取り組みの推進を考えている。

また、本調査は、教育施策の改善や教育指導の充実等に役立てることが目的であり、点数による競争や学校・学級間の序列につながる恐れがあるため、成績の公表は行わないこととしている。

【そのほかの質問】 防災体制について



若柳 良明 議員
(平和環境市民クラブ)

「森林環境都市」を目指すべき 市民参画の一体的取り組みで

【Q】 森林・林業は木材を供給するだけでなく、緑をはぐくみ、水をつくり、地域環境を保護・持続する多面的機能を有している。本市の65.5%を占める山林を生かした地域資源利用による地域の活性化、低炭素・循環社会を柱とする「森林環境都市花巻」を目指すべきと考えるが所見を伺う。

【A】 【市長】 豊富な森林資源を活用し、森林の持つさまざまな機能とともに、本市の地理的優位性を生かしながら、地球温暖化の防止や資源循環型社会の形成を図り、地域を活性化させる必要があると認識している。このように望ましい環境像の実現に向けては、林業担い手および後継者の確保により持続的な森林経営の促進を図ることはもちろんのこと、林業関係団体や事業者、行政や多くの市民の参画による一体的な取り組みが必要と考えている。

大迫高校の存続は

【Q】 県立大迫高等学校の存続は、岩手中部地区全域から入学してくることが必要と考えるが、そのために何が必要と考えているか伺う。



花巻市森林組合大迫事業センター

【A】 【教育長】 学校が入学者の多様なニーズをとらえながら、希望する進路実現のための充実した指導体制や生徒の個に応じたきめ細かな指導に加え、大迫地域の教育資源を活用する教育課程を整備し、魅力ある学校づくりを進めることが重要である。そのためには、地域と連携した教育活動の展開、地域のさまざまな支援が必要であり、学校は、そのことを積極的な情報発信していくことが必要と考える。教育委員会では、大迫高等学校の存続に向けた支援を進めている。

【そのほかの質問】 天保義民碑・農村義民公園周辺の整備について



藤井 英子 議員
(花巻クラブ)

地域医療について 一定の支援を行う必要がある

【Q】 総合花巻病院は、本市の医療の中核を担っている病院である。二次救急等への支援だけでなく、建物も老朽化していることを考えると、建て替えを視野に入れた支援が必要と考えるがどうか伺う。

【A】 【市長】 総合花巻病院は、急性期の患者や急性期を脱した後の治療の継続に対応できる病院で、地域医療において重要な役割を担っている。これまでの計画で、救急医療体制維持のために財政支援を行ってきたところである。今後、仮に建て替えを検討される場合には、有利益な国・県の補助制度を紹介するなど総合花巻病院との連携を密にし、意向をお聞きしながら市としても一定の支援を行う必要があると考えている。



地域医療に重要な役割を担う総合花巻病院

地域福祉について

【Q】 「制度のはざま」でSOSを出せない人々を地域住民と一緒に発見し支えていく仕事がある。本市も地域福祉の推進のために、大阪府豊中市で行っている「コミュニケーションワーカー」の制度に取り組む考えはないか伺う。

【A】 【市長】 花巻市保健福祉総合計画で掲げる「誰もが慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、安心していきいきと暮らせるまち」を目指している。本年4月から花巻市社会福祉協議会において「地域福祉コーディネーター」を配置し活動を開始している。多様な地域課題を地域内で解決する中心的な役割を担うコーディネーターは非常に重要であることを認識し、地域福祉の取り組みを進めていく。

【そのほかの質問】 人口減少対策について、地域づくりについて、観光行政について、国際交流について



近村 晴男 議員
(花巻クラブ)

産廃処分場受け入れの考え方は 住民の理解なしには進めない



昭和43年築の大迫中学校

【Q】 県の次期産業廃棄物最終処分場の候補地5カ所の中に、大迫町亀ヶ森4区、赤梅山の東側30ヘクタールの沢地が含まれているが、自然環境への影響や文化遺産の存続などをどのようにとらえているか。また、受け入れに対する市の考え方を伺う。

【A】 【市長】 自然環境への影響回避のため2次選定では環境省レッドリストの絶滅危惧に該当する生息地等を除外。文化財保護法等指定の史跡名勝・天然記念物等が対象地域からおおむね1kmの範囲内にある場合や対象文化財を含め周辺地域一帯を観光資源としている場合は除外している。

また、県が責任を持つて住民説明をすることとしているが具体的日程等は市と相談したいとの意向である。県は候補地5カ所とも、地域住民の理解が得られなければ進められないとしており、市としても同様の考えである。

大迫中学校の木造化は

【Q】 木材の耐火性、耐震性などが見直され、3階建て校舎も可能となるなど、公共施設等への地元産材の利用促進を図る環境が整いつつある

中、大迫中学校の改築は木造化とすべきではないか伺う。

【A】 【教育長】 構造は建設場所決ま定後、学校や地域住民の意見を聞きながら検討したい。仮に木造化する場合、地元産材利用には設計段階から林業関係者と十分協議し、材料調達の流れを検討する必要がある。建築面積によっても違いがある。鉄筋コンクリート造で1〜2年のところ、木造では伐採・乾燥・製材・加工期間等を見込むと通常3〜4年を要する。今後の動きを見て専門家の意見も聞き検討する。

【そのほかの質問】 ニホンシカの食害対策について、郷土芸能等の現状と指定の考え方について、市内高等学校の「地元学講座」開設に対する支援について